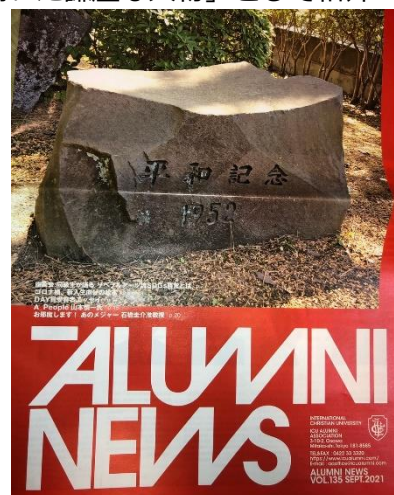


国際基督教大学（ICU）の「園丁 宮澤吉春」について

宮原 豊（9組）



ICU ALUMNI NEWS（国際基督教大学同窓会報）2021年9月号に「園丁 宮澤吉春」が掲載されています。この中で吉春さんは青木村出身の「明治生まれの一本筋の通った気骨のある人物で、どこまでもストイックに献身的に働いた謙虚な人物」として紹介されていますが、名庭園のICUキャンパスとはいえ、一介の園丁（庭師）が何故ここに紹介されているのか実に興味深い話でありました。全文は、ほぼ同文が掲載された下記のICU図書館ニュース（2018年12月4日付け・デジタル版）のリンクをご参照ください。



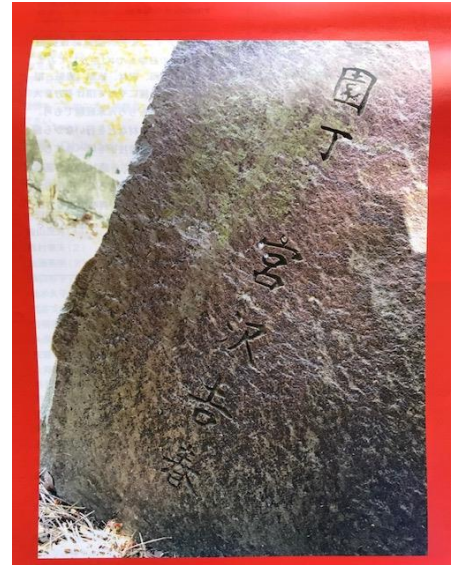
国際基督教大学（ICU）図書館ニュース（2018-12-04）

<https://www-lib.icu.ac.jp/Column/CooCooNotch/20181116.htm>

上記 NEWS には和英文が掲載されており、海外に幅広いネットワークを持つ ICU 同窓会の内外の卒業生や関係者（教師や留学生等）から様々な反響があったそうです。国際的に活躍する人材を数多く輩出している ICU の、設立時から草創期の湯浅八郎初代学長等に交じてこのような立派な方がいて、初期の大学を支えていたのかと話題になったそうです。

この情報が私の手元に届いたのは昨年 11 月中旬でした。青木村北村村長から、この素晴らしい話題を東京青木会において会員間で共有してもらいたいという趣旨の連絡でした。なお、東京青木会は青木村出身者の故郷会で、現会長は同期 7 組の櫻田喜貢穂氏で、筆者（宮原）は IT 広報担当副会長を務めています。NEWS のコピーをホームページにアップするにはもう少し鮮明なコピーが必要だし、関連情報を知ることが必要と思いました。そこで ICU ALUMNI NEWS の編集者にお会いしたいと考えていたところ、そもそもこの情報を北村村長に提供された ICU・OB の竹倉征祠氏（上田高校 60 期、元関東同窓会会員、現在上田市真田に在住）から ICU アーカイブスの松山龍彦氏をご紹介いただき、12 月中旬に三鷹市の ICU キャンパスを訪ねました。竹倉氏に辿り着いたのは、関東同窓会の先輩・白井透氏（60 期）が配信された同期の竹倉氏の子息・竹倉史人氏の著作『土偶を読む』（晶文社、2021 年 4 月刊）についての情報を読んだことでした。なお、同氏は気鋭の人類学者として注目されており、『土偶を読む』は 2021 年サントリー学芸賞を受賞されました。まだ読んでいない方にはぜひご一読をお勧めします。興味深い内容です。

NEWSの筆者のICUアーカイブスの松山氏は、前述のとおり「宮澤吉春さんは明治生まれの一本筋の通った気骨のある人物で、どこまでもストイックに献身的に働いた謙虚な人物」と紹介し、このいじらしいまでの謙虚さを思う時、ICUの歴史の中にもう一人思い当たる人物がいるとして湯浅八郎初代学長について言及し、湯浅学長の「ICU私見」の中に記述されている「ICUの記念石碑の中に、名誉評議員秩父宮妃殿下、東ヶ崎理事長、鶴沢評議員会議長、湯浅学長とともに園丁宮澤吉春の名が刻まれた理由」が紹介されています。



松山氏は、吉春さんの生まれた青木村について「(前略)正義と反骨に富んだ精神は『青木村気質』と言われ、(中略)いわく『夕立と騒動は青木村から来る』。上田に近い里山の村人の中で語られているそんな気質が、宮澤さんの一生を貫いていきます」と、2018年図書館ニュースの原文に追加説明しています。しかし、私は吉春さんの生き方、そしてICUにおける約25年間の誠実で献身的な生活ぶりは、正義感や反骨心というよりは、むしろ「滅私奉公」の精神ではなかったかと感じる次第であります。それは青木村の人々の愛郷心にもとづくもう一つの美德です(大隈重信風に言えば「・・・であるのでアール」)。

滅私奉公という言葉は死語になりつつあるのかもしれませんが。私利私欲を捨てて公のために尽くすことは一昔前の美德であり、そんなのは「今は流行らない」ということかもしれないですが、滅私奉公は主義や宗教や洋の東西を問わず、また昔も今も重要な徳目の一つと私は信じています。公のために奉仕すると権力者が上から滅私奉公を押し付けるのは間違いで、全体主義に通ずる危険性すらあるのですが、一人一人が私を捨てて公(社会や人々)のために自分の出来る範囲において少しでも尽くそうとする奉仕の気持ちがなければ世の中はうまく回りません。「今だけ俺だけ金だけ」という昨今の政治・経済・社会の風潮が改められなければ人間社会の先行きは暗いです。私見ですが、湯浅学長が言いたかったこと、また松山氏が吉春さんのことをICU媒体に二度までも取り上げられた趣旨はそういうことだと思いました。

今回の調査の過程で、宮澤吉春夫妻の間に生まれた4人姉妹の3人は既に他界されていたものの、第三女が90歳でご存命、その子供さん(60歳)も更にその子供さんもおられることが判明し、ICU ALUMNI NEWSに掲載された記事を読んでいただくことが出来ました。今まで知らなかった父や祖父や曾祖父の一面を知ることが出来たと喜んでいただきました。私にとっては、昨年のコロナ禍の息苦しい中でそれが最大の喜びとなりました。

(2022年1月11日記)

以上